

問 1 . (解答例)

鹿児島市の『掃除山遺跡』は、約 11,000 年前に噴出した桜島薩摩テフラに覆われており、縄文草創期の定住集落であることがわかった。国分の『上野原遺跡』はこのテフラより上にあり、約 9,500 年前に噴出した桜島火山灰層に覆われていることから縄文早期前葉の国内最古かつ最大級の集落跡であることがわかった。アカホヤ火山灰層は鬼界カルデラを起源とする約 6,300 年前の火山灰層で、指宿の『橋牟礼川遺跡』ではこの火山灰層の下から縄文式土器が、上から弥生式土器が出土した。(228字)

問 2 . (解答例)

豊臣秀吉の死後、1600 年に徳川家康を中心とする東軍と石田三成を中心とする西軍の対立による戦いが関ヶ原の戦いである。西軍にたった島津義弘は、東軍優位と見るや、『薩摩の退き口』といわれた勇猛な敵中突破を敢行した。その際、義弘の甥にあたる『島津豊久』は、義弘の身代わりとなって戦死した。武功の誉れ高い義弘の苦労をしのぶ『妙円寺参り』は、400 年以上経った現在も、多くの参加者のもと、10 月に行われている。(200字)

問 3 . (解答例)

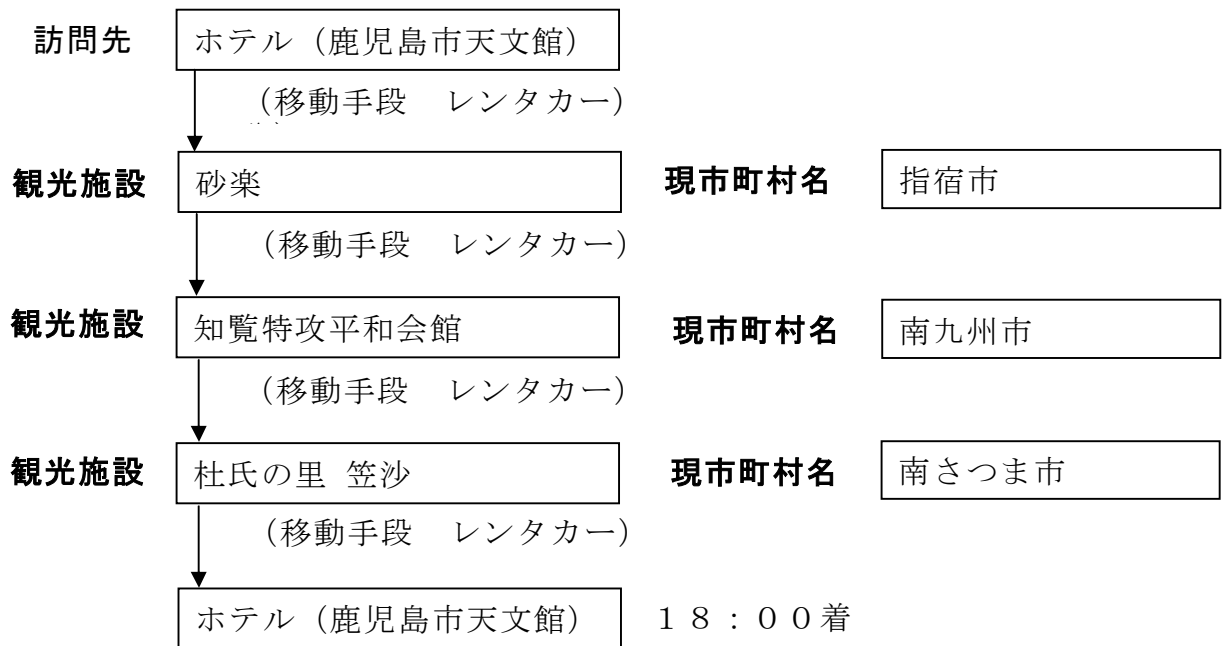
1908 年 6 月に『鹿児島新聞』の記者 3 人が創作し、ことし『100 年』目を迎えた郷土文芸。鹿児島言葉を用いて世相を風刺したり庶民の暮らしぶりをユーモラスに表現する五、七、五の定型詩である。鹿児島新聞の薩摩狂句投稿欄の選者に起用され、投稿作品に鹿児島言葉の寸評「唱」を付け加えたのが『重永紫雲山人』(現在の薩摩川内市入来町出身の記者)で、薩摩狂句中興の祖とも称される。入来地方の農村風俗を描いた「作人五郎日記」の著者でもある。(211字)

問 4 . (解答例)

鹿児島県においては、平成 16 年 10 月の薩摩川内市にはじまり、平成 18 年 3 月末までに 18 の合併が行われ、合併前 96 あった『市町村数』がほぼ半分の 49 になった。合併後の市町村別人口をみると、鹿児島市が 60 万人を超えるとともに霧島市、鹿屋市、薩摩川内市の 3 つの『10 万人』都市が誕生した。その一方で、『熊毛・奄美地域』では、名瀬市、住用村、笠利町が合併し奄美市が誕生したが、それ以外では合併が進まなかった。(200字)

問 5 .

行程



コースの特徴・提案理由

南薩地域は、坊津、笠沙から野間半島に至るリアス式海岸、吹上浜砂丘や開聞岳、池田湖など豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれており、知覧の特攻平和会館や武家屋敷などの歴史的資源も多い。また、この一帯は、県内有数のさつまいもや茶の産地であり、焼酎工場も多く立地している。今回は、南薩の育んだ焼酎文化や太平洋戦争の歴史に触れてもらうとともに、世界で唯一の天然砂むし温泉など体験型の観光も楽しんでいただく。(196字)